The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	化け物の昔話
Author(s)	藤井, 千晶
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2014, 25, p. 106-119
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/72983
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

化け物の昔話

藤井　千晶

0. はじめに

本稿の目的は、東アフリカ沿岸部の昔話に登場する「化け物」に着目し、化け物の特徴と昔話の構造、内容を分析することである。化け物はスワヒリ語ではズィムィ（zimwi）と呼ばれている。イスラーム文化の影響から、化け物は精霊を意味するジニ（jini）や悪魔を意味するシェタニ（shetani）という、アラビア語起源の名称で呼ばれる場合もあるが、昔話の中でイメージされるそれらの容姿や性格は、ズィムィとほぼ同一である[1)]。

本来、化け物は恐ろしい存在である。子どもたちが夜、眠りにつく前に化け物が登場する話を聞くと暗い場所を怖がるようになるのは、日本でも東アフリカ沿岸部でも同じである。しかしながら、化け物は恐ろしいだけではなくユーモラスな性格を合わせ持ち、昔話の中の大きなアクセントとなって盛り立てる役割も担っているのである。

本稿の内容は2012年9月にザンジバルにおいて実施した調査に基づいている[2)]。調査では、ウングジャ島の10カ所の村を訪問し、調査協力者から出身地の方言で昔話を語ってもらった（図1）。その結果、12人の調査協力者から、53話の昔話を聞き取ることができた。そのうち、化け物が登場する昔話は11話であった。

本稿の章立ては次の通りである。1章では、化け物の登場する昔話を要約した内容を、物語の展開別に3つに分類して紹介する。2章では、化け物の容姿や性格、昔話の展開について考察する。なお、それぞれの昔話のタイトルは、内容を考慮して筆者が付けたものである。1章の各昔話の冒頭部の四角で囲まれた内容は、調査協力者に関する情報であり、①年齢、②性別、③職業、④最終学歴、⑤出身地、⑥調査日の順に記載している。また、

---

1) 厳密には、ズィムィは昔話に登場する邪悪な生き物、ジニは神によって火から創造された目に見えない生き物、シェタニは反抗してジニの世界から追い出された目に見えない生き物である（Baraza la Kiswahili la Zanzibar 2010: 133, 364, 465）。

2) ザンジバルはタンザニア連合共和国の一部であり、ウングジャ島とペンバ島、さらにその周辺の小島で構成されている。なお、本稿は文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B）「東アフリカにおけるスワヒリ語変種の記述研究（研究代表者: 竹村景子、課題番号: 23320086）」の研究協力者として、2012年9月4日から9月20日までの間、ザンジバルのウングジャ島で実施した調査の成果である。

昔話の中の「♪」で挟まれた箇所は、語り手によって挿入された歌の歌詞である。

図１：タンザニアの位置（上）とウングジャ島の調査地（下）（筆者作成）

1. 昔話の内容

1.1 人間が化け物を打ち負かす話

1.1.1 継子と化け物

①65 歳　②女性　③帽子作り、農業、海藻採り　④小学 4 年生　⑤マクンドゥチ　⑥2012. 9. 6.

あるところに男とその妻、2 人の女の子がいた。2 人の子どものうち、1 人は死別した先妻の子で、妻は継子を疎ましく思っていた。ある日、妻は継子に、外で料理に使う火をもらってくるように言いつけた。そこで継子は化け物の家に行き、「♪火をもらってくるようにお母さんに頼まれました♪」と歌った。すると、化け物たちは歌に合わせて踊りながら外に出ていったので、継子は中に入り、火を取って家に帰った。母親は毎日、継子に火をもらいに行かせた。

ある日、継子が化け物の所に火をもらいに行くことを拒んだので、母親が行くことになった。しかし、母親は化け物に捕まってしまった。母親を心配した継子は化け物の家に行き、例の歌を歌った。すると、化け物たちが踊りながら外に出てきたので、母親を助け出すことができた。母親は二度と継子をいじめることはなかった。

さて、家に戻ってきた化け物たちは、母親がいなくなっていることに気づき、怒って次々と仲間同士を火あぶりにして食べ始めた。そして、最後に残った化け物は、自分の体を食べ、最後に頭がカボチャに変身し、転がっていった。ある日、継子が森でそのカボチャを見つけ、家に持って帰って茹でると、ボーン！と音を立てて爆発し、何もなくなってしまった。

1.1.2 末っ子の化け物退治

①48 歳　②女性　③小学校教師　④小学 12 年生　⑤ウングジャ・ウクー　⑥2012. 9. 7.

あるところに男とその妻、7 人の子どもがいた。ある日、妻は夫に「私たちが十分に食べられるように、子どもたちを捨ててしまいましょう」と言った。夫は驚いたが了承した。ある日、男は子どもたちを海に連れて行き、「後で迎えにくるから」と言って釣りに行った。しかし、男は戻って来なかったので、子どもたちは海辺で夜を明かした。

翌日、末っ子以外の兄弟たちは貝を取りに行った。末っ子が兄弟の帰りを待っていると、小さな虫が通りかかった。末っ子が事情を話すと、小さな虫は米粒を差し出し、鍋で炊くように言った。末っ子がその通りにすると、鍋はご飯でいっぱいになり、兄弟たちは腹一杯食べた。このようにして、兄弟たちは平穏に暮らした。

ある日、末っ子は小さな虫に、鍋一杯に増える米粒のある所に連れて行ってもらった。その町の家々にはどこも穀物がたくさんあったが、人の気配はなかった。そこで、末っ子が家の中にあった米粒を手に取ると、化け物が現れた。末っ子は恐ろしくて腹を壊した。ところで、化け物には尻の穴がない。化け物は末っ子のくだした物を舐め、「うまい！わしらも尻に穴をあけたらこんなスープが出てくるのか？」と言った。末っ子は「出てくるよ。僕がお尻に穴をあけてあげるよ」と言い、熱した釘を化け物の尻に順に突き刺していった。すると、化け物は次々に倒れて死んでしまった。末っ子と兄弟は両親を探しだし、穀物がたくさんある化け物の家に移り、幸せに暮らした。やがて、末っ子の化け物退治の評判は王様の耳にも入り、末っ子は王様の娘と結婚した。

1.1.3 男と 7 頭の犬

①70 歳　②男性　③農業　④なし　⑤マテームェ　⑥2012. 9. 10.

昔々、一人の男がおり、たくさんの犬を飼っていた。ある日、男はお婆さんの所に行き、ランギランギの花のある場所を尋ねた。すると、お婆さんは「この道をずっと行きなさい。でも、長い歯を持った化け物がでるよ」と忠告した。男は、運良く花を見つけることができた。花を摘んで帰る途中、男は化け物の長い歯につまずいてしまった。男は急いで逃げ、途中で木に登った。化け物たちが木の下まで追いかけてきたので、男は「♪1 つ耳（犬の名前）よ、わしは死にそうじゃ！　2 つ耳よ、わしは死にそうじゃ！　3 つ耳よ、わしは死にそうじゃ！・・・♪」と歌い、飼っている犬たちを呼んだ。

すると、化け物たちはこの歌に合わせて踊りだした。犬たちは男の歌が聞こえてくる方向に一目散に向かい、木の下までやって来ると、化け物たちに噛み付いた。男は木から降り、手に入れたランギランギの花を王様に渡した。王様は褒美として、彼にしかるべき地位を与えた。

1.1.4 化け物の籠に入れられた子ども

①45 歳　②男性　③帆船づくり　④小学 9 年生　⑤ヌングィ　⑥2012. 9. 9.

昔あるところに男とその妻、娘がいた。ある日、その娘が化け物に遭遇し、化け物の持っていた籠の中に入れられてしまった。化け物が歩き出すと、籠は「カティンディリブゲ」と音をたてて揺れた。すると子どもは「♪私の名前はムゥ・ミゼ、カティンディリブゲじゃないよ・・・♪」と歌い始めた。

ある場所で化け物が籠を置いたので、娘は籠を「カティンディリブゲ」と揺らし、歌を歌い続けた。それに気付いた周りの人々は、娘を助け出し、娘の代わりに籠の中に瓶を入れた。化け物はそうとは知らず、家に戻った。そして、籠の中を見ると、娘の代わりに瓶が入っていたので驚いた。

1.1.5 化け物の妃

①48 歳　②女性　③小学校教師　④小学 12 年生　⑤ウングジャ・ウクー　⑥2012. 9. 7.

昔あるところに、王様がいた。ある日、王様は自分の妃となる女性を家来たちに探させた。家来たちは遠くの森でとても美しい女性を見つけた。王様は彼女を気に入り、2 人は結婚した。しかし、彼女の正体はなんと、化け物だったのだ。

ある日のこと、妃となった女性は王様に「みんなで森に行きましょう」と言った。王様は了承し、皆を連れて森に向かった。森に着くと、妃は１人で小屋の中に入り、帰る時間になって家来が呼びに来ると、疲れた様子で出てくるのだった。

ある時、家来の１人が「お妃様は家の中で何をしているのだろう」と不思議に思い、次に森に出掛けたときに中を覗いてみた。すると、妃は長い歯、角、しっぽ、大きな爪、毛を生やした化け物の姿で、太鼓を叩きながら「♪角よ、出ろ　角よ、出ろ♪」と歌っていた。そして帰る時間になって家来が声をかけると、妃は「♪角よ、引っ込め　角よ、引っ込め♪」と歌い始め、いつもの人間の姿に戻った。

家来は、妃が化け物であることを仲間に打ち明けた。このことはやがて王様の耳にも入り、王様は長老たちに相談した。長老たちは「町中の太鼓を集め、音楽隊を呼ぶのじゃ。そして、前もってお妃の歌っていた歌を音楽隊に教えておくのじゃ」と助言した。

その日になり、王様は「結婚式に行こう」と言って妃を呼んだ。妃が席に着くと、音楽隊は例の歌を演奏し始めた。すると妃は席を立って服を脱ぎ、角やしっぽ、髪、歯を生やして踊りだし、最後には住んでいた森に飛んで帰っていった。

1.1.6 漁師と化け物

①45 歳　②男性　③帆船作り　④小学 9 年生　⑤ヌングイ　⑥2012. 9. 9.

昔あるところに、貧乏な漁師がいた。漁師は海で小瓶を見つけたので蓋を開けた。すると中から化け物が現れた。化け物は漁師に「お前を食べてやる！」と言った。漁師は「あなたを助けた私を食べるなんて、そんなバカな！」と言ったが、化け物は聞き入れなかっ

た。そこで漁師は「どちらの言い分が正しいのか、他の生きものにも聞いてみよう」と言い、まずココヤシに「私は瓶の中に閉じ込められていたこの化け物を助けたのに、彼は私を食べると言います。どう思いますか？」と尋ねた。するとココヤシは「人間は私の葉や実や枝を取っていろんなものに使うが、人間は私たちには何の利益ももたらさない。だから人間のあんたは食べられても仕方ない」と言った。そこで漁師は「他の生きものにも聞いてみよう」と言った。2 人は牛に同じ質問をした。牛は「私は人間に牛乳などを与えているのに、人間は私に重い荷物を運ばせて、最後には私を殺して食べる。だからあなたは食べられても仕方ないよ」と言った。化け物は「わかっただろ？　お前を食べてやる！」と言った。漁師は「待って。他の生きものにも聞いてみよう」と言った。次に 2 人はアブヌワスという男に出会ったので、同じ質問をした。アブヌワスは「漁師さんは食べられても仕方ないね。でも化け物さん、そんなに大きなあなたが小さな瓶に入っていたなんて、信じられないな」と言った。そこで化け物は「では入って見せよう」と言って、瓶の中に入った。アブヌワスと漁師は瓶の口を塞いで再び化け物を中に閉じ込め、瓶を海に捨てた。

1.1.7 化け物と箱の中の子ども

①40 歳　②女性　③不明　④不明　⑤ムクワジューニ　⑥2012. 9. 10.

昔ある所に 3 人の子どもがおり、3 人は川に水浴びに出掛けた。すると、川には大きな箱を持った化け物がいた。化け物は 1 人の子どもを捕まえ、箱の中に閉じ込めてしまった。化け物は「♪カートゥンイェ、カートゥンイェ♪」と箱を揺らしながら家々を 1 軒 1 軒訪ねた。すると箱の中の子どもは「♪私はカートゥンイェではない、マカメ・ワ・マカメの子どもです♪」と歌って返した。その様子は太鼓隊のようだったので、皆が喜んでひっきりなしに化け物を家に呼んだ。

ある日のこと、ある人が「化け物さん、ちょっとお店に行って来てくれませんか」と頼んだ。化け物は了承し、「鍵は渡すが、この箱は開けないように」と言付け、店に向かった。その間、子どもは箱から出され、代わりに蜂を入れて逃げてしまった。その後、化け物が戻り、その箱を受け取った。帰る途中、化け物は「♪カートゥンイェ、カートゥンイェ♪」と歌ったが、箱の中からいつもの返事が聞こえてこなかった。化け物は怒って「答えないと、殺すぞ」と言ったが、返事はなかった。家に着いて化け物が箱を開けると、蜂が飛び出してきて化け物を刺し始め、化け物は死んでしまった。

1.1.8 化け物と姉妹

①45 歳　②男性　③漁師　④小学 10 年生　⑤チュワカ　⑥2012. 9. 11.

あるところに 2 人の姉妹がいた。ある日、1 人の男が姉の方に求婚にやって来て、2 人は結婚した。男と姉妹は遠い森に移り、一緒に暮らすことにした。

男は一日中、畑で仕事をしていたので、姉は妹に、男に昼食を届けるように言った。ある日、妹が畑に昼食を持っていくと、しっぽをはやした男が歌って踊っているのを見た。帰って姉に伝えたが、姉は信じなかった。妹は我慢をして昼食を届け続けたが、とうとう怖くなって姉に代わってもらった。そして姉が畑に昼食を届けに行くと、彼女もまた、化け物の姿で仲間と踊っている男を見た。2 人は伝統医のところに行って相談した。伝統医は「この小さな絨毯をあげよう。化け物たちが来たら、この絨毯の上に座って、この棒で床を叩きなさい。そうすれば絨毯が浮き上がって逃げることができるだろう」と助言した。

一方の男は、すでに仲間に「家に人間が 2 人いるから、もう少し待ってまるまる太ったらみんなで食べよう」と話していた。ある日、夫は妻に「明日、家にお客さんを連れてくるよ」と言った。翌日、大きな音が聞こえて来たので 2 人は絨毯の上に座り、棒で床を叩いた。すると絨毯は宙に浮かんで飛んで行った。化け物たちが家の中に入ると、人間が見当たらなかったので皆怒りだし、お互いを食べ始めた。そして最後に残った化け物が、自分自身を食べ始め、頭だけになって、カボチャに変身して転がっていった。

ある日、姉妹は森に薪を拾いに行った。するとカボチャが転がってきたので、家に持って帰った。カボチャを食べようと思い、割ろうとしたが、固くて割れない。すりこぎでたたくと割れたが、中には髪の毛が入っていただけであった。

1.2 人間が化け物に打ち負かされる話

1.2.1 フクロウの化け物

①38 歳　②女性　③主婦　④小学 5 年生　⑤ムココトーニ　⑥2012. 9. 9.

昔、あるところにとても貧しい母と娘がいた。娘は遠くからやってきた男と結婚し、夫の住む村に引っ越した。その村には大きな川があったが、夫は妻となった娘に川に近づかないように、と言付けていた。ある日、夫が外出している間、夫の兄弟がやってきて、「川に行こう」と娘を誘った。娘は断ることができず、2 人で川に行って洗濯し、水浴びをした。その後、夫の兄弟は「帰ろう」と言ったが、娘は「ネックレスが切れて川に落ちてしまった」と言い、川でネックレスを探し続けた。すると化け物が現れて「♪カチュンブイ

ガ、カチュンブイガ♪」と歌った。すると娘は「♪私はカチュンブイガではなく、マカメの娘のミゼです。ネックレスをなくしてしまいました♪」と歌って返した。すると化け物は、大きなフクロウに変身し、娘をつかんで飛び立ち、家に返してやった。次の日、娘が帰宅した夫に起こったことを話すと、夫は「別のネックレスをあげるから。もう川には行かないように」と言って聞かせた。

ある日、夫が長い旅に出ている最中、再び夫の兄弟が娘のところに来て、川に行こうと強引に誘ったので 2 人で出掛けた。洗濯をして水浴びしていると、またネックレスが切れてしまった。夫の兄弟は帰ってしまったが、娘はネックレスを探し続けた。水が首の所まで満ちてきた。そこにフクロウに変身した化け物が現れ、「♪カチュンブイガ、カチュンブイガ♪」と歌った。娘は「♪私はミゼ、マカメの娘です。ネックレスをなくしてしまいました♪」と歌ったが、今度はフクロウが娘を助けることもなく、娘は川に沈んでしまった。

夫が家に帰ってきて妻の姿がなかったので、兄弟に事情を尋ねた。そして兄弟が娘の沈んだ場所に行くと、そこには一輪のきれいな花が生えていた。夫はその花を持ち帰り、家で涙を流した。

1.2.2 化け物と男と王様の娘

①45 歳　②男性　③漁師　④小学 10 年生　⑤チュワカ　⑥2012. 9. 11.

ある所にとても貧しい男がいた。ある日、男が森で薪を切っていると、斧が手から滑ってしまった。斧が落ちた所にドアがあったので中に入ると、そこには王様の娘がいた。娘は「悪い化け物にここに連れて来られたの。毎週木曜日は化け物がここに来るから、来ちゃだめよ」と言った。それから男は時々、娘の元を訪れておしゃべりをした。

化け物は家の中にお守りを置いていた。化け物は娘に「何かあったときはこのお守りを引っ張りなさい。すぐに戻って来るから」と言っていた。ある日のこと、娘は男に料理と酒を振舞っていた。その時、男は酔っぱらって誤ってお守りを引っ張ってしまった。娘は男に、隠れるように言った。化け物は急いで戻って来て、娘に「何があったのか」と尋ねた。娘は「誤って引っ張ってしまっただけ」と答えたが、化け物は「人間の匂いがするぞ」と言って家中を探しまわり、とうとう男を捕まえた。そして、化け物は男を猿に変えて森に放した。猿になった男は木をつたって海まで行き、ある船に乗った。船の上で人々は猿が人間のような仕草をするのを見て感心し、皆で猿をかわいがった。

ある日のこと、王様は新しい大臣を探すため、国中の人に自薦書を書かせた。猿もまた

書いたのだが、その書類が王様の目にとまった。王様は猿を城に連れて来させた。すると猿が人間のように挨拶をしたので驚き、猿を城に置くことにした。

ある日、王様が猿とゲームをしていると、王様の娘が入って来て「この猿は人間よ」と言った。そして娘が呪文を唱えると、猿は男に変身した。その頃、化け物は自分の掛けた魔法が解け、猿が人間に戻ったことを知り、怒ってお城にやって来た。そこで化け物がライオンに変身して見せると、王様の娘は鋭い刀に変身し、ライオンのたて髪を引っ張った。すると化け物はザクロの実に変身して膨れ上がり、バラバラに砕けた。次に王様の娘は鶏に変身し、そのかけらをついばんで食べてしまった。しかし、王様のイスの下に残っていたザクロの種が火をふきながら膨れ上がって割け、その破片が王様の娘にあたり、娘は死んでしまった。化け物も死んだ。その後、王様は「お前のせいで娘が死んでしまった」と言って男を城から追い出してしまった。

1.3 人間が化け物に助けられる話

①41 歳　②女性　③主婦　④小学 8 年生　⑤キズィムカズィ　⑥2012. 9. 7.

昔々ある所に、男とその妻がいた。2 人には子どもがいなかった。ある日、妻が井戸で化け物に出会った。化け物は「言う通りにしたら子どもを授けてやろう。7 日間はここに来ないで、8 日目に黒色以外の服を着て来なさい」と言った。夫はそのことを妻から聞き、了承した。8 日が経ち、妻は黒以外の服を着て井戸に行った。そしてしばらくして、妻は妊娠していることに気づいた。2 人は大喜びした。

やがて男の子が生まれ、3 人で化け物の所にお礼に行くと、化け物は「その子を育てさせてくれ」と申し出た。2 人が断ると、化け物は「そうしなければその子は死んでしまうだろう」と言った。その後 3 年間、貧しい暮らしが続いた。そこで、2 人は再び化け物の所を訪れた。すると化け物が「その子を 3 日間、私に預けなさい」と言ったので、2 人は困り果てたが、男の子を化け物に預けることにした。3 日後、男児は無事に両親の元に戻され、化け物から大金も贈られた。その後、一家は幸せに暮らした。

2. 昔話の内容分析

2.1 化け物の特徴

2.1.1 容姿

昔話の中で化け物は、体格が大きく、角、しっぽ、長くて大きな爪、長い歯などを持つ恐ろしい存在として表現されている（1.1.3/ 1.1.5/ 1.1.8）。また、人間を食べてしまうような、人間に対して圧倒的に強い力を持つ（1.1.6 /1.1.8）。このような描写は、聞き手に恐ろしい化け物の姿を想起させる。さらに、自分自身や人間を、動物や人間などに自在に変身させる不思議な力を有している（1.1.1/ 1.1.5/ 1.1.6/ 1.1.8/ 1.2.1/ 1.2.2）。

さて、次の図 2～4 は、スワヒリ語の絵本の中で描かれている化け物のイラストの一例である。いずれのイラストにも共通しているのは、化け物が人間よりも大きな体格をしており、人間を驚かせている状況である。また、図 2 の化け物は、鋭い爪と大きな耳、しっぽ、先の割れた長い舌を持ち、全体的に動物のような姿で描かれている。一方の図 3、4 の化け物は、角と牙を持ち、手にはこん棒を持っている。こちらの化け物は、体格や肉付きなどが全体的により人間に近い姿で描かれている。

図 2：鋭い爪、大きな耳、牙、長い舌、しっぽを持つ化け物（Mogambi 2006: 表紙）

図 3：鱗のような皮膚、角 2 本、牙、こん棒を持つ化け物 （Wafula 2008: 2）

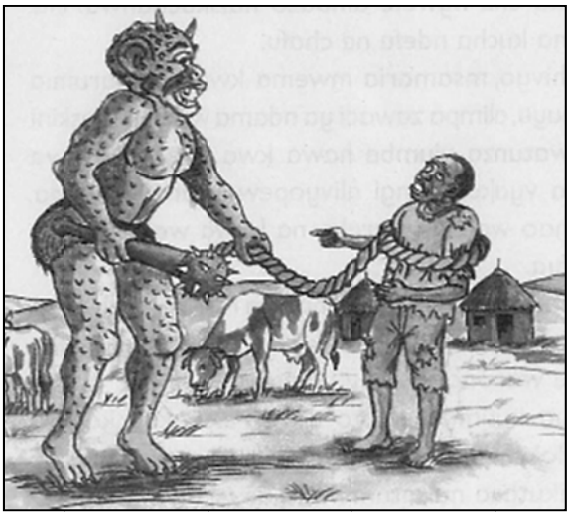
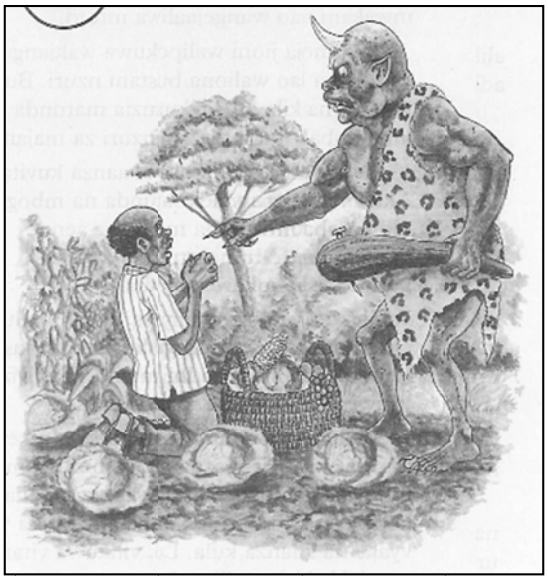


図 4：角 1 本、牙、こん棒を持つ化け物 （Ali 2007: 11）



このように、イラストにおいても様々な化け物の姿が描かれているように、化け物の特徴は昔話の中である程度共通の要素を有している一方で、想像上の生き物であるため、詳細な描写は語り手や聞き手の想像に委ねられていることがわかる[3)]。

2.1.2 棲みか

また、化け物の棲みかは、遠い森や川、海などに設定されているように、人里からは遠く離れた場所である（1.1.5/ 1.1.6/ 1.1.7/ 1.1.8/ 1.2.1/ 1.2.2/ 1.3）。人間と化け物は、完全に棲む場所が異なっているのである。化け物が住む場所は「遠くの自然の中のどこか」であり、人間にとっては「よくわからない場所」である。このような地理的に遠くて曖昧な場所設定は、人間にとって不明な点が多い分、より恐ろしさや不思議さを増長させる要素となっているであろう。

---

3) 余談ではあるが、それに対して日本の化け物である鬼の容姿や身体の特徴は、かなり固定化されているといえるであろう。鬼の特徴としては、大きな身体、2 本の角、鋭い牙、虎の毛皮の腰巻き、表面に突起のあるこん棒を持つ姿が連想されるであろう。金によれば、日本の鬼のイメージは、主に平安時代の絵巻物から始まり、江戸時代の絵本などの世界においてほぼ定着し、近代の絵本や教科書の挿絵等を通じて一定した鬼のイメージが日本全国に広まったと考えられている（金 2006: 10）。

2.1.3 性格

化け物の大きな特徴の一つは、陽気で単純な性格を持つ点であろう。陽気な化け物は、歌と踊りを非常に好む。自分自身が歌いだしたり人間が歌ったりすると、喜んで我を忘れて踊りだす（1.1.1/ 1.1.3/ 1.1.7）。また、人間の姿に変身していた化け物も、ひとたび踊り始めると、我に返るって化け物の姿に戻ったり、元に住んでいた棲みかに戻ったりする（1.1.5/ 1.1.8）。

また、化け物は頭に血が上ると、仲間同士や自分自身の身体をも食べたり（1.1.1/ 1.1.8）、人間の口車に乗せられたりするなどして騙されてしまう（1.1.6/ 1.1.7）。このような化け物の単純な性格は、結果的に自分の身を滅ぼしてしまうことに繋がっていくのである。

2.2 歌と音韻の効果

化け物が歌や踊りに興じると我を忘れて踊りだす様子は、その恐ろしい容姿とのギャップも相まって、とてもユーモラスな情景を聞き手に想起させる。また、化け物が歌って踊る場面は、語り手によって歌が挿入される箇所でもあり、低い声や鼻音を織り交ぜたおどけた声色で歌う工夫が凝らされ、聞き手にとっても思わず笑ってしまうような昔話の山場となっているのである。

さらに、化け物は「カティンディリブゲ（1.1.4）」や「カートゥンイェ（1.1.7）」、「カチュンブイガ（1.2.1）」といった、それ自体は意味を持たないが独特な音韻を持つ言葉を繰り返し発する。この化け物の言葉もまた、昔話の中のアクセントの一つとなっている。この化け物の言葉を聞いた人間は、いつも自分の名前が呼ばれていると捉え、「私の名前は～ではなく、〇〇です」というように歌って返事をする。そうすると、歌を好む化け物は喜び、何度も人間に向かって呼びかける。このやり取りはやがて化け物の隙につながり、最終的に人間が化け物から逃げたり、助けられたりするきっかけとなるのである。

2.3 あらすじ

本稿で紹介した昔話では、最終的には非力な人間が知恵と勇気をふり絞り、力の強い化け物の弱点をついて打ち負かす展開が多い。1 章で言及した 11 話の中では、人間が化け物を打ち負かしたり、元の化け物の棲みかに追い払ったりする話が 8 話登場した（1.1.1−1.1.8）。その中で人間は、貧しかったり親に捨てられたりするなど、特別に弱い立場にある存在と

して描かれている[4]。

たしかに化け物は恐ろしい容姿をしており、大きな身体と強い力を持っている。しかしそれと同時に合わせ持つ単純な性格と陽気さは、化け物の致命的な弱点となっている。無我夢中で歌と踊りに興じてしまう隙が、人間が化け物を打ち負かすきっかけとなるのである。それに対して人間は非力であるという短所を持つが、知恵を持つ点が長所としてあげられるであろう。最後に人間が打ち勝つ昔話が多い点を考えると、「知恵は力に勝る」という共通の教訓が化け物の昔話の背景にあると言えるであろう[5]。

3. おわりに

本稿の目的は、東アフリカ沿岸部の昔話に登場する化け物に着目し、化け物の特徴と昔話の構造、内容を分析することであった。多くの昔話には、歌や特徴的な音韻を持つ化け物の言葉が効果的に挿入されていた。語り手によって施される独特の節回しや声色、化け物の発する言葉の音韻についての分析は、非常に興味深い点であるので今後の課題として別稿に譲りたい。

化け物は恐ろしい容姿をしており、人間を食べたり変身したりするような、人間と敵対する邪悪な存在として描かれている。しかしそれと同時に、歌や踊りを好む陽気さと、ひとたび歌と踊りに興じると我を忘れてしまったり、単純な性格から騙されやすかったりといった間の抜けた特徴を兼ね備えたユーモラスな存在でもある。

また、その陽気さと単純さが化け物の弱点であり、非力ではあるが知恵を持つ人間に最終的には負けてしまう。化け物の登場する昔話は、弱い存在である人間に知恵と勇気を持つことや、困難に直面しても冷静に行動することの重要性を教えている。「邪悪さ」を誇張した化け物は、子どもに対して世の中の善と悪、社会の決まり事や価値観をわかりやすく、楽しみながら教える上で格好の存在となっているのである。

---

[4] なお、非力な人間の代表的な存在としてザンジバルの昔話に頻繁に登場するのは「マカメ・ワ・マカメ」という人物である。マカメ・ワ・マカメは、貧しい生活を送っているが、彼や彼の子どもたちは知恵や勇気を持って困難に立ち向かい、最後には自分よりも力の強い化け物や裕福な王様を打ち負かす（藤井 2013: 27–8）。なお、1 章の昔話の中には、「マカメ・ワ・マカメ」という名前の人物が登場するものが 4 話含まれているが（1.1.1– 1.1.4）、本稿は化け物を中心に論じているため、「男」とだけ表記している。

[5] 本稿では、逆に人間が化け物に打ち負かされたり（1.2.1/ 1.2.2）、人間が化け物に助けられたりする昔話も紹介した（1.3）。このような展開は例外的ではあるが、語り手によると、それぞれ「意地を張るのは良くない、仲間の言うことをきくように（1.2.1/ 1.3）」、や「悪いことをすると自分に返ってくる（1.2.2）」という教訓が背景にある。

参考文献

Ali, Abdulla Ali. (Illustrator: Julius Maina). 2007. *Ungo wa Ajabu.* Nairobi, Macmillan Kenya.

Baraza la Kiswahili la Zanzibar. 2010. *Kamusi la Kiswahili Fasaha.* Nairobi, Oxford University Press.

藤井千晶. 2013.「マカメ・ワ・マカメの民話」『スワヒリ＆アフリカ研究』24, 16–31.

金容儀. 2006.『玄界灘を渡った鬼のイメージ：なぜ韓国のトケビは日本の鬼のイメージで語られるのか』国際日本文化研究センター.

Mogambi, Hezron. (Illustrator: Julius Maina). 2006. *Zimwi Hilo*. Nairobi, Macmillan Kenya.

Wafula, Timoyhy Wasike (Illustrator: Njoroge Davidson). 2008. *Maskini, Zimwi na Mwizi na Hadithi Nyingine.* Nairobi, Sasa Sema Chapa ya Longhorn Publishers.